シリーズ192

高めよう！人権意識 心のかけ橋

問人権推進課（☎928-1006）

私たちの幸せは、確かな学びから

～知らないことが差別につながる～

見えにくくなっている同和問題

2011年に市が実施した「人権尊重のまちづくりに関する市民意識調査」では、「同和問題が少しでもあると思う」と回答した人は51．3％でした。反対に「ないと思う」は19．2％、「わからない」が25．7％で合わせると44．9％でした。

しかし、不動産取引などで同和地区であるかどうかを問い合わせる事例や、インターネット掲示板への同和地区に対する差別的な書き込みは年々増加しており、同和地区に対する偏見や差別意識は根強く残っているのが現状です。

最近では、行政書士などが職務上の権限を利用して戸籍謄本や住民票の写しを不正に取得し、身元調査などに悪用する事件も起きています。

市では不正取得防止のために、代理人や第三者に住民票の写しなどを交付した場合、本人にその旨を通知する「登録型本人通知制度」を実施しています。（8ページに関連記事）

そっとしておけば自然になくなる？

同調査では、「同和問題はそっとしておけば自然になくなる」という、いわゆる「寝た子を起こすな」という考え方が3割近くを占めています。

しかし、同和問題に限らず「知らない」「わからない」ということは誤った情報による偏見をもちやすいといえます。正しいことを学び、解決方法をみんなで話し合うことが大切です。

また、誤った認識をしているとしたら正しく理解する必要があります。

「同和問題は口に出さずそっとしておく」ことは、正しい人権意識を眠らせ、差別を温存し助長させてしまうのではないでしょうか。

差別のない社会をめざして

「差別はいけないこと」と言いながら、自分に直接関わる問題になると、昔ながらの迷信や因習にこだわったり偏見でものを見たり判断したりする場合もあります。

同和問題の解決のためには、私たち一人ひとりが根拠のない迷信や因習、世間体にとらわれず、自分自身で考えて判断する生活態度や、差別を許さないという価値観をもって行動していくことが大切です。こうしたことがあらゆる差別を許さないことにつながります。

「人権問題は自分には関係ない」と無関心でいることも、結果的に差別の存在を許してしまうことになります。一人ひとりが差別をなくすためにどう行動するかを考え、自分にできることから始めましょう。

「人権は　差別をなくす　合言葉」